



彼が最高だつていいの 文句あつが!

彼こそベスト!!スタンリー・ジョーダン

スタンリー・ジョーダン、何と滑らかに、過激な善きだろう。スタンリー・トは彼に再生の魂をあずけた。スタンリー・ジョーダンを最初に見た時に、エンツォとか、フツノとか、思わず口をひいて出た悪態、そして「ハート」といふおもしろいもの、彼がギターである幸運に到着したものです。ギターに固定観念をもつてはいけません。ギターは「自由」に限りなく近い、自由でありたいと考えるのが、ギターに向かわせる、というモラルが圧倒的に存在したから。

すべてが、万国ひっくり返り、TV番組に、片腕のギタリストが登場したことかあった。チェット・アトキンスというハカテック・ギタリストをコピーした時代があった。そして、スタンリー・ジョーダン、ギターと生活をともにする、というライフスタイルには、自由がある、自由が包み立つ、自由を獲得する努力が、ギタリストの無意識の善徳だ。

テイルト・バック・ヘッド ストックにもおもわず のけぞる。

ヘッド・ストックは、アイビー・ローズのストロイヤーなんかでおなじみのデザインでも、ロコ・タウチが大胆に、ホワイト・オン・ブラックのレザリングに、ヒューマン・ホールでわけ、これが、アロラインのシン・ホリックでわけ、テストロイヤルおなじみのセイブに加え、全モデルがテイルト・バック形状を採用している。つまり、クイックのとけぞっているわけ。そり返っているわけだ。これが形の上での特徴であることも、フルクセスをキープ。

海外で人気のプロライン。東洋のアイランドスへもおすそわけ。
プロライン、ネーミングはアイビー・ローズのおとさない。プロラインの殺人隊のようなネーミングの中で、プロライン、はちゅうと海軍艦隊のような感じがするかもしれない。アイビーローズ、セはほしめがない。PRORというのには、必ずしもかて努力を要する。しかし、人間では、スワート、原し気である。これが、このネーミングとマテリアル、地盤を兼ねた、もつとち、お教するつもりでこのネタをつけたわけではない。そんなアイビーローズのキタリストに似合う、そんな人を持って欲しい、という願望がないわけじゃないけど。

組み合わされた、251柱ピックアップコンプレックスがベース、リアのハムバuckerには、全モデルロロサウンドシステムを搭載し、3チャンネルにスイッチして、ひとつの音だけで、どんな曲でも深まらしてしまおう、という人なら、しかも、小気味のよい、ドライブ・サウンドと、透明クリアな、ナチュラル・ハーフトーンをくつつけちゃうかなんて、わりと極端なことを考えたら、レイスタイルを限定するわけでもないけど、デジタル・エフェクターや、キーボードが多用される、同時だからこそ、セレクトのハバ利かした方が親切かもね。

スーパーマシンと敢然と言い放すPLMINNO。
ストレート・スルー・ネックしか、偶然と決断したエクスセントなウッド・マテリアルの導入、これは異端では、メタルとウォルナットの組み合わせ、ダイアモンド・インサート、飲食の時代に、もなおかつ、光り輝く、この、あちこつと行き過ぎがありましたが、しかし、セレクトの構造上、もともともサステイナブルな、スルー・ネックと、ハイフレットピックアップのEDGE & TOP LOCK IIIシステムによる、超強靱なものの優れた持性を、MMのサウンド・アップした音の鳴り、まさに、スーパース。

5つのミニボタンによるプリセット・サウンド・システムの効能。
アセンブリーとしては、ホワイト・トップのフレットを施した、ハードウェアがサウンドされている。また、5つのミニボタンによる、プリセット・サウンド・システムを装備した。これによると、あちこつのレバー・スイッチにも、氏の組み合せを、一部の切替は操作で変更させることが出来る。5つのミニボタンで、それぞれは、それぞれ、プロント・プリセット・ア、や、トリプル・オフ、を駆使した、ギター全体のサウンド・オフなど、アイディアが広がりますね。

ウツディな先陣性、リッチな音質、フアな方も楽しめる、いで、PLT DECO
ボレイ、フィニッシュには、より、クワイからセラミック、という、WNは、ウォルナットで、ボカギー・センター・テック、という、WNは、150mmを生かした、ナチュラル・ウッド、マホカギー・センター、テクニカル、サウンド、メロディ、をラミネートするは、い